

常陸大宮市における観光資源の探索と観光ルートの提案

茨城大学 学生会員 ○大隈智仁
 茨城大学 正会員 小柳武和
 茨城大学 正会員 桑原祐史

1. はじめに

近年、持続可能な国づくりに向けて、地域経済の活性化、雇用機会の創出、国際相互理解の増進等を図り観光立国推進基本法の制定をはじめとした、施策の充実が図られている。

茨城県においては新茨城県観光振興基本計画³⁾が施行され、この中の推進事項として、テーマ性のある周遊ルートの設定や、周辺観光地と連携した観光ルートの提案への取り組みが記され、観光ルートを利用した茨城県の観光地としての魅力向上が期待されている。

常陸大宮市では現在、山間地域の過疎化や高齢化が深刻な問題となっており、地域力の維持のためにも観光振興による地域の活性化が必要とされている。現在、事業を行うなどしてまちづくり活動に積極的に取り組んでいるが、強い誘致力のある観光資源がないという問題点を抱え、また、観光ルートの設定も現段階ではあまり取り組まれていない。

2. 調査対象地

本研究では、常陸大宮市の中でもかつて交通、物流の大きな役割を担い、常陸大宮市の伝統産業である紙漉きの最盛地であった、山方地区の山方宿商店街周辺の観光地としての魅力向上、それによる再活性化が重要だと考えた。(写真1)



写真 1

3. 観光資源の調査

(1)常陸大宮市における現状

常陸大宮市における観光ルート設定の現状や、茨城県における観光ルートの傾向を調べるため、茨城県内で現在用いられている 212 件の観光ルートの調査を行った。その中で常陸大宮市の観光資源へ立ち寄る観光ルートは 1 件、また、常陸大宮市を通過する観光ルートは 4 件のみしか設定されておらず、非常に少ないことがわかった。

(2)観光資源の分類とデータ化

常陸大宮市全域を対象として既存の観光資源の調査を行い322件の観光資源を把握し、それらの分類を行った。分類は観光資源の性質、観光資源の形態という二つの観点から分類を行い常陸大宮市の観光資源は表-1の様に分類できることがわかった。それぞれの分類項目について表-1、性質ごとに色を分け位置をプロットした分布図を図-1に表す。

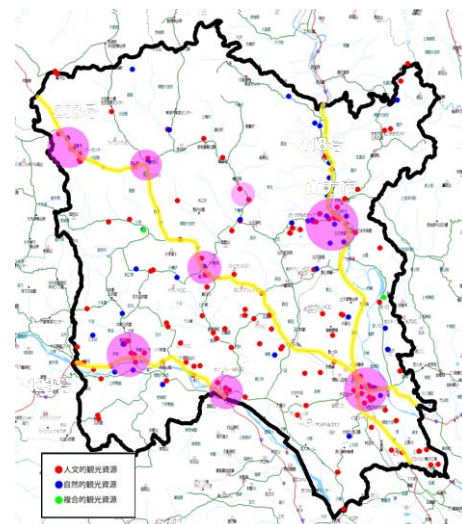


図-1 観光資源の分布

(3)観光資源の性質

a. 人文的観光資源

観光資源の中でも、人為的に作られたもので、その中でも歴史的意味や、文化的、風土的価値が高いものを人文的観光資源とした。図-1に赤色の点でプロットした。

表-1 観光資源の分類

性質		
1.人文的資源	2.自然的資源	3.複合的資源
形態		
1.文化財	4.店舗	7.イベント・祭り
2.観光施設	5.民話	8.公園
3.神社仏閣	6.特産品	9.風景

b. 自然的観光資源

自然物が媒体となって観光資源となっているものを自然的観光資源とした。図-1に青色の点としてプロットした。

キーワード 観光資源 観光ルート 観光振興 常陸大宮市 茨城県

連絡先 〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1 茨城大学工学部 TEL 0294-38-5004

c. 複合的観光資源

自然的資源とも歴史的資源とも認識できる、あるいはどちらとも取れないものを複合的資源とし、図-1に緑色の点としてプロットした。

4. 既存の観光資源についての考察

図-3の分布図で黄色い線で表した国道沿い、また丸で示したかつての宿に観光資源は多く見られる傾向が見られた。宿では狭い範囲でもルートを作成できる可能性がある。特に山方宿では自然的観光資源も人文的観光資源も多く見られ、それが期待できる。

5. 新たな観光資源の発掘

常陸大宮市において新たな観光資源となりえる物の調査を行った。文献調査で、及びヒアリング調査で、以下の新たな観光資源を見出した。

a. 常陸大宮市に住む貴重動植物種（ホタルなど）。b. 民話・伝承。c. 伝統産業の製作過程、原材料生産の様子（西ノ内和紙づくりの音、じねんじょ畑、漆畑、景観等）。d. 地域特有の景観(生活景観など)

6. 山方宿における観光資源の探索

5で見出した新たな観光資源としてなりえるものを、山方商店街周辺地域を対象として現地調査を行い、探索しその分布を調べた。その結果以下の5つのものが見られた。

a. 梅の木の群生、柚子の木の植生ポイント。b. 漆の木、椿の木の植生ポイント。c. 水郡線のビューポイント。d. 茅葺、トタン屋根の民家、個人宅のお庭（オープンガーデンの提案）

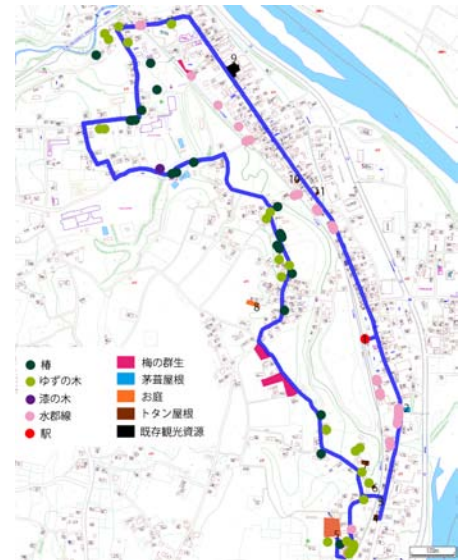


図-2 山方宿における観光ルート

7. 観光ルートの提案

茨城県の傾向としては自動車の使用を前提としたルートが多く、常陸大宮市において見られた既存の観光ルートも、車による観光を前提としたものであった。しかし、ルート設定による地域の活性化のためには、長時間の滞在が経済的効果や、観光客と地域住民との触れ合いを生み出し、地域の活性化に繋がってくることも考えられ、そのためには徒歩による周遊が望ましいとも考えられる。

そこで、本研究では自動車によるルートと徒歩によるルートの両方を提案をした。自動車によるルートでは常陸大宮市全域を対象とし、性質を基本テーマにして自然的なルートと、人文的なルートの提案を行った。徒歩による観光では、移動距離や移動範囲に限られる。一般的な地方都市では、駅からの歩行圏にたくさんの観光資源が存在していることは稀だといえる。本研究ではそこに留意し、山方宿で新しい観光資源の発掘を行い、既存の観光資源に加え新たな観光資源を用いて観光ルートの提案を行った。図-2にその一つを示す。

8. 結論

本研究から以下の成果を得た。

茨城県の観光ルート 212 件の調査と性質、方法、観光資源数、所要時間、主体などの観点から、茨城県における観光ルートの傾向・現状を考察し、自動車による観光ルートが多いことや、常陸大宮市の観光資源を利用した観光ルートが少ないことなどを把握した。さらに常陸大宮市における既存の観光資源 322 件の位置や情報をまとめ、それらの分布図を作成し、宿や国道沿いに多く分布している傾向を把握した。また、それらを性質、形態の観点から既存の観光資源の分類を行った。それらを踏まえ、山方商店街を中心として 8 種類の新しい観光資源について現地調査を行いその分布を把握し、それらの山方宿での活用を意識したうえで、5 つの観光ルートの提案を行った。

9. 参考文献

- 1) 溝尾良隆：観光資源論—観光対象と資源分類に関する研究—、城西国際大学紀要 16(6) 1-13 2008
- 2) 三木桂光 山田一美 宮原辰夫：観光資源振興による地域活性化、文教大学国際学部紀要、第18巻号
- 3) 茨城県新観光立国推進基本法